

## 「胸部がんの腫瘍内多様性に関する病理学的研究：形態とゲノム・エピゲノム異常の関連」研究に参加された方

この度、研究組織の変更がありましたのでお知らせいたします。研究の概要につきましては、下記をご参照ください。

### 1. 研究の対象

1962年1月1日から2025年3月31日に当院で肺がんの治療を受けられた方

### 2. 研究目的・方法

研究の概要と意義：

肺がんは死因の上位を占める治療の難しいがんの一つです。肺がんの特徴として、臨床像、病理像、遺伝子異常など様々な意味で多様であることが挙げられます。このようながんの多様性は、治療反応性の違い、特に近年注目されている分子標的治療に対する耐性出現を説明できる可能性があります。本研究は、肺がんを含む胸部がんの多様性による病理診断や標的治療に対する評価（コンパニオン診断）への影響および多様性をもたらす機序の解明を目的とします。研究の結果は、正確な診断、治療反応性、予後予測に有用な指標を確立できる可能性があります。

目的：

肺がんを含む胸部がんの多様性について、病理形態像の変化と関連するゲノム、エピゲノムの変化を解析します。これらの変化と患者さんの臨床情報との関連性を明らかとすることを目的とします。

方法：

当院で治療を受けられた胸部がん患者さんを対象として、通常の診療行為で採取された検体の余剰検体および包括的同意のもとに採取された血液などバイオバンクで保存されている検体を用います。がん組織、がん細胞での遺伝子変異、遺伝子発現、タンパク発現、small non-coding RNA 発現の変化を検索します。生殖細胞の解析は行いません。対象となった患者さんの診療録から、カルテ番号などの個人情報を含む臨床病理学的特徴に関する必要な情報を収集しますが、情報収集の作業に当たる人員は医師をはじめとする医療知識のある研究者です。

個人情報保護に関する配慮：

閲覧する診療録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されない方法で情報を収集します。研究患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますので、いつでも次の連絡先まで申し出てください。

研究実施期間：10年間

### 3. 外部への試料・情報の提供について

試料や情報は、国立がん研究センターと各医療機関で個人が特定できないよう匿名化された状態で厳重に保管します。また、匿名化対応表は、当センターの個人情報管理者が保管・管理します。

### 4. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：カルテ番号、生年月日、カナ名字、病理検体番号、病歴、治療歴、病理診断情報等

試料：手術・生検で摘出した組織、血液等

### 5. 研究組織

国立がん研究センター中央病院 元井 紀子  
国立がん研究センター研究所 河野 隆志  
日本医科大学 野呂 林太郎、本田 一文  
埼玉県立がんセンター 神田 浩明

### 6. 研究結果公表

研究の結果として学術論文・学会発表で公表します。

### 7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者：

河野 隆志

国立がん研究センター研究所ゲノム生物学分野

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

TEL : 03-3542-2511 FAX : 03-3542-3815

2021年3月10日作成 第2.1版